

第1回伊那市中学生キャリアフェス

報告書

第1回伊那市中学生 キャリアフェス 2018



～未来につなげる一つの出会い～

日時：2018年11月2日(金) 9:30～15:30

場所：伊那市民体育館 メインアリーナ サブアリーナ

主催：伊那市教育委員会

後援：郷土愛プロモット

企画・運営：伊那市中学生キャリアフェス実行委員会

平成30年度長野県「地域祭元氣心り支援金」採択事業

目的

「地域で子どもを育てよう」子どもは地域の宝・地域の未来という伊那市キャリア教育憲章の理念のもと、地域の中学生が「地域を知り」、「地域の人とふれあい」、「地域の未来を考える」日を作り、伊那市への愛着を深め、誇りを持ち、地域に貢献したいと思える場とし、将来伊那市を支える人材を育成するという目的で開催する。子どもだけでなく、参加、出展する大人たちも、地域、それぞれの立場で特色を出しながら自由に子どもにかかわる機会とし、大人たちにとっても、もう一度地域の良さを子どもたちと共有し、地域の発展、次世代育成にかかわることで参加者全員がそれぞれに個々のキャリア（生き方）を考える機会になることが期待される。

一 概 要

開催期日	平成30年11月2日（金）	
時間	9時30分～15時30分	
会場	伊那市民体育館 メインアリーナ・サブアリーナ	
主催	伊那市教育委員会	
後援	郷土愛プロジェクト	
企画・運営	伊那市中学生キャリアフェス実行委員会	
参加中学校	市内6校 2学年（伊那・東部・西箕輪・春富・高遠・長谷）	
参加生徒数	647人	
昼食	豚汁（ニシザワ）・五平餅（鈴平）・お茶（いちえ）・甘酒ラテ（甘酒屋 an's）	
出展ブース数	105	
内訳	サブアリーナ（主にビジネス）54	メインアリーナ（主にカルチャー）38
	ヒューマンコーナー（番組形式）11	癒しブース 2



タイムテーブル

	8:00	9:30	10:30	10:40	11:10	11:40	12:10	12:50	13:20	13:50	14:00	15:30
会場準備	オープニング			ブース巡り						クロージング		片付け
	文化伝統披露 実行委員長挨拶 生徒副リーダー 意気込み(生徒・大人)	移動	1回目 15分話 5分感想 10分移動	2回目 15分話 5分感想 10分移動	3回目 15分話 5分感想 10分移動	お昼タイム	4回目 15分話 5分感想 10分移動	5回目 15分話 5分感想 10分移動	メインアリーナへ移動	シェアリング	・市長の話 ・実行委員全員一言 ・リーダーあいさつ	

出展ブース名 (ブース番号順)

サブアリーナ (主にビジネスブース)

(株)産直新聞社/(株)伊那リゾート/自衛隊長野地方協力本部伊那地域事務所/泉翔グループ/国立信州高遠青少年自然の家/(有)平沢写真館/上伊那広域消防本部/(一社)南信防災情報協議会/上伊那森林組合/(株)フォレストコーポレーション/(一社)長野県建築士会上伊那支部青年女性委員会/都築木材(株)/国土交通省天竜川上流河川事務所/(一社)長野県建築士事務所協会上伊那支部/宮下建設(株)/三洋グラビア(株)/タカノ(株)/サン工業(株)/信英蓄電器箔(株)/KOA(株)/(株)キッツ/(株)南信化成/(有)スワニー/上伊那助産師会/上伊那生協病院/伊那市歯科医師会/伊那市医師会/税理士法人あおば会計/カフェコーデ/ベーカリーハウスコフレ/伊那食品工業(株)/(株)鈴平/伊那醤油(株)/(一社)TUGBOAT/信濃毎日新聞社/伊那ケーブルテレビジョン(株)/東京海上日動火災保険(株)/ジブラルタ生命保険(株)/(株)八十二銀行/NCC(株)/(株)テク・ミサワ/上伊那農業協同組合/農事組合法人ミナミアグリ/(公社)長野県公共嘱託登記土地家屋調査士協会/長野県司法書士会伊那支部/長野県弁護士会上伊那在住会/伊那警察署/(株)赤坂ホンダ/ホンダカーズ松本南/伊那市役所/伊那商工会議所/伊那市コミュニティーカード協同組合/(株)イナリサーチ/大明化学工業(株)

メインアリーナ (主にカルチャーブース)

長谷食文化研究会/カリカリブックス(仮)/三風の会/ゆめクラブ/菓匠 Shimizu/(株)やまとわ/(株)CLAMP/南信州アウトドア協議会/スカイプロジェクト合同会社・NPO 諏訪広域ドローン協力会/sky-contact/NPO 法人子ども若者サポートはみんぐ/通り町一丁目商店会/KEES プロジェクト/菓子庵石川/甘酒屋「an's」/雑穀マイスター/南信花園/伊那谷 IoT 研究会/クラフトハートトーカーイ伊那店/(株)Regatta/(株)アーク/(有)友野菓子店/地域環境デザイン MOC/伊那ローメンズクラブ/上伊那地域酪農協議会「おもてなし牛乳」/bパレット/Curves/あつい!こまがね/昭和のおやじ+/伊那部宿を考える会/(一社)井上井月顕彰会/伊那市消防団/Hundredths/狐島区若駒会/伊那市総合型スポーツクラブ/伊那市私立幼児教育会/社会福祉法人連絡会/(一社)高遠石工研究センター

癒しブース

お茶屋いちえ/玉虫文庫 (アトリエリム)

ヒューマンコーナー

小沢修一・鐵戸裕史 (松本山雅) /飯島進 (信州そば) /三沢・日下部 (元消防団) /宮下拓也 (西駒山荘) /細谷啓太 (ライスファーム) /成美 (ご当地タレント) /川崎昭仁 (NPO ヒューマンネット長野) /小林誠 (komako) /警察署/日下部良也 (木工職人)

平成28年度は伊那中学校（郷土愛プロジェクト主催）、平成29年度は春富中学校（長谷中学校合同、伊那市教育委員会主催）と単校で行ったキャリアフェスを、平成30年度は伊那市内6中学合同とし、初めて市内の中学2年生が一堂に会する機会となるキャリアフェスを開催しました。同じ地域で生まれ育った同世代の子どもたちが、地域の大人と出会い、仕事や文化伝統、働く想い、人生の先輩として中学生に伝えたいことなどを、子どもたち650人がそれぞれに気づき感じてもらえる機会になるように、落としどころを決めず、自由に回り自由に感じられる1日となるような内容になりました。

伊那市キャリア教育推進委員会の構成団体を軸に実行委員を構成し、大人だけではなくそこに各校2名ずつの生徒実行委員も加わり、約1年かけ計画準備をしました。実行委員全員がまず同じ意識を持ち同じ方向を向いて進められるよう時間を使い、生徒実行委員は限られた時間の中念入りに準備計画を行い、11月2日、とても気持ちがいいお天気の中でキャリアフェスの幕が開きました。

オープニング



開始直前、生徒実行委員円陣組んで気合いを入れます！



木下君のベース演奏で幕開け。司会は飯島君と松村さん

司会者の呼びかけで各校実行委員、校旗を持って元気よく入場

雰囲気はがらりと変わって、地域の伝統芸能も出演し盛り上げてくれました。



荒井区獅子舞保存会



狐島長持 若駒会



こどもみこし

生徒も参加し場を盛り上げます



天狗・からす

初めておみこしを担いだ生徒も



車屋太鼓

久しぶりに太鼓の練習をした生徒も



オープニング司会進行：春富中飯島君、伊那中松村さん

息もぴったり。打ち合わせもバッチリ



テーマ発表 中2全員で投票しました。
「未来につなげる一つの出会い」

武田実行委員長あいさつ

郷土愛プロジェクト向山会長あいさつ



サバイバルゲームからの自己紹介、「はじめまして」の他校の生徒、大人とまずは仲良くなろう。緊張もあったけど、伊那市に住む同じ中学2年生。最初に人の優しさを感じた瞬間です。

ブースめぐり

15分話—5分感想—10分質問・移動を1回とし、自由にブースを回ります。



プログラミング体験



膝つき合わせて人生を聞いたり



札勘って難しい〜



聞いた話をメモを取ったり、少人数で説明聞いたり、体験したり、会場中に笑顔と発見がいっぱい



郷土料理も



中学の時に抱いた夢を実現した話



トレーラーも参加

午前3回のブースめぐり終了後にお昼タイム 地域の食「五平餅」と「豚汁」



五平餅は、学校給食の米飯を毎日提供してくださっている「鈴平」さん。ビジネスブースにも出展してくださいました。子どもたちは、普段食べている給食のごはんを作っている企業さんを知る機会にもなりました。豚汁は、「ニシザワ」さん。約1,000人分の豚汁の調理を担当してくださいました。他にも、「ローメンズクラブ」さんのローメン、飲料コーナーには「いちえ」さんがお茶を、「甘酒屋 an's」さんは甘酒ラテを用意してくださいました。

午後は2回のブースめぐり



サブアリーナはビジネス中心。 どこも魅力的で迷います



工夫を凝らしたブースがいっぱい
ヒューマンコーナーも人気でした



今まで知らなかった地域の魅力に気づききっかけになりました



シェアリング・クロージング



生徒企画第2弾。 司会進行は伊那中前島君、東部中竹下さん

キャリアフェスの1日の振り返りを他校の生徒や大人たちと一緒にいき、感じた事などを共有しました。



朝は他校の生徒と一緒にすることに緊張気味でしたが、シェアリングはそれぞれが心に残った言葉や、出会った大人、感じたことなどを共有し合いました。学校の垣根を超えて友達にもなりました。



最後のあいさつは
生徒リーダー中島君



白鳥市長から
地域を担う子どもたちへメッセージ

フィナーレはカラフルな風船。一挙にステージに群がる中学生

単に会社紹介にならないように工夫が凝らされ、様々な視点でお話が聞ける会場では、地域を知り、社会と今の自分たちが繋がっていることに気が付いたり、抱えていた不安がなくなったり、大人に憧れたり。地域にいる大人たちと中学生が「楽しい」時間を共有し過ごしたことは、生徒それぞれに必要な未来へつながる何かを得られた時間になったようです。子どもだけでなく、参加した大人も自身が改めて「仕事」のことを考えたり、大人自身が伊那市のことを知らなかったことに気が付いたり、会場にいた全ての人が何かを手に入れることができたキャリアフェスでした。自由さとゆるさの中で生まれた「場の力」、伊那市に住んでる生きてる者同士、子ども大人の垣根を越えて関われる時間の大切さを実感した1日となりました。

生徒感想抜粋

- ◇ 普段目をしている会社が何をしている会社なのか知ることができた。
- ◇ 具体的ではないけど、工業や製造の仕事につきたいと改めて思い、将来何になりたいか不安だったものがなくなった。だいぶ安心した気持ちになれてうれしかったです。
- ◇ どうしてこの会社で働こうと思ったのか、そして、働いてみての思いを聞く事ができて、僕の将来への参考にもなりました。また、どの人もとても楽しそうにっていて、働くことが楽しいと実感できた。
- ◇ 社長や部長も昔は完璧だったわけではなく、ちゃんと努力して、今の仕事を頑張っているんだなあと思いました。最初は、このキャリアフェスのことが不安だったけれど、色々な人から色々な話を聞いてキャリアフェスってすばらしい！と思えた。皆それぞれ色々な目標を持って仕事をしていたので、僕も色々なことに目標を持って、物事をこなしたいです。
- ◇ 田舎で全然おもしろそうな職業なんてないだろうと思っていただけ、この田舎の自然があるところではできない職業など、思ったよりたくさん職業があっぴょくりしました。色々な話を聞くと、その職場ごとに大切にしていることがあって、すごく勉強になった。
- ◇ 興味なかったことが楽しいと思えたり、自分が笑顔になれる仕事があるんだとわかった
- ◇ 興味なかったブースに行ったことで、興味なかった仕事にちょっと興味を持ちました。
- ◇ 見えてないだけで、気づいていないだけで、普段の私達の生活を支えていてくれる素敵な会社がこんなに身近にあると知れた。
- ◇ 僕は何のために仕事をするのかということを知ることができました。自分の為だけでなく、自分を応援してくれる人達を喜ばせるために頑張る事を続けていると、自分の夢が見つかったり、その夢に少しずつでも近づくということを言われていて、確かにその通りだなと思いました
- ◇ 「今、なりたい職業なんて考える必要はない。でもなりたい自分は常に考えて」と聞き、なるほどなあ后感心しました。私は夢が現時点ではありません。でもなりたい自分は考えれば考えるほどたくさん出てきます。常に「なりたい自分」というものを考えていきたいと思いました。
- ◇ 仕事について深く考えすぎていました。ちょっとした気になった事をきっかけに、それを仕事にすると良いと聞いてちょっと気持ちが楽になりました。
- ◇ 働くとは、人の為になるんだと思いました。そして、将来働く僕たちの為に、今働いている人たちが働く土台となるものを作ってくれていると感じました。消費者の為で、自分になる利益は少ないのに、嫌がる仕事も僕たちの為に働いている姿はとてまかっこいいなと思いました。
- ◇ 私も、自分の仕事を目を輝かせて教えられる大人になりたいと思いました。
- ◇ 行く予定じゃなかったけど、会場の人に連れられて行ったら、おもしろいおじさんに会った。仕事のことだけでなく、なぜ勉強するのかなど、今後のことなどを教えてもらった。無理やり連れて行かれたブースで聞いた話が一番良かった。これがキャリアフェスの出会いなんだと感じた。
- ◇ オープニングの時に出会った大人がすごく面白くて、その人のブースに行った。仕事のことすごく面白く説明してくれて、その職場に職場体験学習で行けばよかったと思った。
- ◇ 獅子舞や長持、初めて見た。すごいと思った。
- ◇ 知らないこと（仕事・文化・食）聞くと興味が出てきて、季節の和菓子食べたいと思った。キャリアフェスはすごく楽しかった。でも「遊」ではなく「学」のほうがすごく多かった。
- ◇ 想像していたよりも伊那市には多くの仕事があることを知ることができた。
- ◇ 伊那市のことはほとんど知ってると思っていたけど、仕事も、文化も、食も知らないことばかりだった。

- ◇ 将来、この伊那市で仕事をしてもいいかなという気持ちになることができました。
- ◇ 伊那から出たい、都会に行きたいと思っていたけど、伊那もいいかも。と思えるようになりました。
- ◇ 伊那市を愛している人が多いと感じました。僕はそんなに伊那が好きではありませんでした。でも今回のキャリアフェスで伊那市が少し好きになれました。
- ◇ 私は将来も伊那に住んで、伊那で働きたいと思っています。今回のキャリアフェスでその思いが強くなりました。
- ◇ 自分とは違った意見を聞く事ができてよかったです。
- ◇ 伊那市の抱えている問題、地域課題を知ることができた。
- ◇ シェアリングでは、他校の人達に自分の感想を言うのは初めてなので、「何でやるんだろう？」と思ったけど、意外と楽しかったです。1日通して、伊那について良く分かったし、色んな人と関われた一石二鳥の行事で楽しかったです。
- ◇ 他校と同じことをして他校の生徒と意見を交わす事なんてないのでとってもいい経験だった。
- ◇ 最初は少しサバイバルゲームやだなと思ったりしてました。だけど、いざ行ってみるとすごく楽しくて、すすんでできた。新しい友達ができたりして楽しかった。
- ◇ 他校の人と友達になれて良かったです。周りにはいないタイプで初対面なのに無言の時も苦痛じゃなかったのが仲良くなれて良かったです。
- ◇ 他の学校の人が本当に沢山いて「怖いな」と思っていました。でも実行委員から、楽しさや活気が伝わってきて、怖さがやわらぎました。サバイバルゲームでは怖くて、1人で行動できませんでしたが、一緒のグループになった男子生徒が笑わせてくれて、緊張をほぐしてくれました。
- ◇ 他校の生徒とのサバイバルゲームは最初嫌だったけど、話してるうちに自分からも話せて、こんな私にも友達ができるんだと思いました。大人の話でも言ってた「自分に自信を持って生きること」が大事だと思いました。
- ◇ 転校した友達に会えて、覚えててくれてうれしかったです。
- ◇ 一緒に回った〇〇君が、ブースの大人の方や他の中学校の人とのコミュニケーションを積極的にとっていて、とてもカッコイイと思いました。
- ◇ 今はすごくめんどくさくても、写真や生活記録など今をとにかく記録しておく、大人になって見返した時に宝物になるよ。と聞いて生活記録や宿題もしっかりやったり、記録しておこうと思いました。
- ◇ 生徒の実行委員がキラキラしていてかっこよかった。
- ◇ 私たち中学生を楽しませようとして走り回っていた実行委員の大人の人たちが格好いいと思った。
- ◇ ユニークな人が沢山いてとても勉強になったけど、まだまだ出会っていない人の方が多いので、またこのイベントがあるといいな。
- ◇ このキャリアフェスティバルで会った人たちのようにすてきな大人になれたらいいなと思った。
- ◇ 話をしてくれた方の、どうして今の仕事を選んだか、どんな仕事をしているか、仕事がとても好きってこと色々聞いてすごいなって思った。私のあこがれの姉さんになりました。
- ◇ 去年も今年もしょうもないことやって、全力で応援してもらって、すごくうれしくて、すごくかっこいいと思った。
- ◇ シェアリングの時、話しかかった大人の方を自分のグループに呼んで色々な質問をして色々なお話を聞けました。「大人は楽しいよ」と言葉を聞いて早く大人になりたいなと思いました。でもそれまでに自分がやりたいことを見つけるのも大事とおっしゃっていたので見つけていきたいなと思いました。
- ◇ 「花には水を、人には心」という言葉です。これは、お年寄りとだけでなく、これからの人生の中で出

会う全ての人に共通することだと思いました。花には水がないと枯れてしまうように、人も心がないと、人として枯れてしまうと思うからです。今まで人に冷たく接してしまうことがありました。だから、もっと人には優しく、協力しあわなければいけないのだと思いました。だからといって周りに合わせて、自分の心を枯らせては成り立たないと思うので、周りの人の心も大事に受け取れなければいけません。私は、介護士という夢があります。この仕事には、コミュニケーションという大事なことが必要です。私にはまだまだ足りないのだと、今回のフェスで実感することができました。

- ◇ 地元に戻ってきた時、石川のお菓子を食べて、「やっぱりふるさとがいいな」と思ってもらえるとうれしいという言葉聞いて、私もそんなおいしいものを作れたらいいなと思いました。また、作るときに食べて喜んでいる姿を想像して、作るというのは当たり前かまけど、いいことだと思いました。
- ◇ まだ少ししか生きてない、まだ少ししか知らない長い人生の夢、長く時間をかけて見つけようと思った！
- ◇ 素敵な大人は沢山いて、でも、生き方、生きてきた道すじ、人としてどんな風に過ごしてきたのか。今までどんな人に会って、どんなことを知ったのか。いろんな人がいて、いろんなことがある。でも今、ここに自分がいるのは、沢山の人の支えがあり、沢山の人の感謝があり、沢山の人の愛されたからである。ということ直接的には言われていないけど、各ブースでの説明や、やっている仕事での誇りがそれを語っていた。このキャリアフェスティバルができたのも、各ブースの人が自分たちに協力してくださり、全力で、自分たちを大人や、キャリアフェスティバルの実行委員のみなさんが盛り上げてくださったからだと思う。これから自分はどうやって生きていくのか、今までどんな風に生きてきたのか、誰にどんな風に支えられてきたのか、沢山の出会いがあり、今があることをよく知る事ができました。
- ◇ キャリアフェスがもっと広がればいいと思う。広がる時には、僕も協力したいと思う。いや協力する！このキャリアフェスは、自分自身の人生にいい影響をあたえてくれた。本当に感謝です。
- ◇ 素の自分を見られてしまっ「やってしまった」と思いました。だけど、見られたなら、見られたで、これからちょっとずつ素の自分を出していきたいです。
- ◇ 自分は地域の人たちに大切にされ、愛されていると思った。
- ◇ ヒューマンコーナーで話をしてくれた方の生き様が素敵だと思った。
- ◇ 大人から聞いたことは、今の自分にも重なる感情が多くて、その感情をさらに膨らませるためにいい経験になりました。
- ◇ 自分の辛さを共感できる大人がいてとてもうれしかったです。
- ◇ 私は自分が生きていることについて疑問がありました。どうして生きなければいけないのか、そんな時、一人の女性とお話をして、大人でも死のことについて考えたりすると聞いて、なんだか安心しました。そして、生きている理由が分かったのです。生きている「生かされて」いるのは、ただそこに自分があるからなんだと分かりました。
- ◇ 「今」疑問に思っていることを、無理に分かろうとしなくても大丈夫。ということです。なぜ、勉強しなくてはいけないのか？生活記録は何のために書くのか？など大人になったら分かることもたくさんあるって聞いて楽になった。
- ◇ 私は「良い仕事」とは何かを考えてキャリアフェスに参加しましたが、答えは1つじゃないだろうと思います。〇〇さんで学んだ「良い仕事」＝「好きな事」というのはもちろん、〇〇さんで聞いた誰かを思って作業すること、つまり「良い仕事」＝「他喜力」というのを学びました。私はキャリアフェスに参加して仕事というイメージが変わりました。自分がやっている仕事に誇りを持ち、熱く語ってくれる大人がいました。そんな姿はキラキラしていて「良い仕事」そのものだったような気がします。私も将

来人を喜ばせられる仕事に就きたいです。

- ◇ 一人の方は「勉強はとにかく大切、今からしっかりやった方がいい、可能性がぐっとひろがるよ」と言いました。別のブースでは「勉強なんて無理にしなくていいよ、どうせいつかやる時が来るから」と言いました。いっけんこの二人の話は矛盾しているようにも思えます。ですが私は「本当は答えがなくして無数の生き方があるんだなあ」ということをすごく実感しました。本当にいい経験になりました。
- ◇ 今焦って将来を決める必要はないと思いました。いろんな生き方をして、それで地元で働いている大人を見て、こんな風にキラキラとした大人になりたいと思いました。それぞれの個性があって一つの社会なので、いろいろなタイプの人がいって当然だし、考え方が違ってても認め合うことも必要だと思いました。
- ◇ 「夢は一つだけじゃない」この言葉を聞いて今まで一つの事に向かって必死になっていたけど、聞いた瞬間に一気に視野が広がりました。確かに小さいころの夢と今の夢は違う。聞いた言葉がすごくあてはまって驚きました。
- ◇ キャリアフェスがあって、自分の夢にちょっと近づけたような気がします。
- ◇ 「夢はだんだん目標が変わってく」と聞いた言葉が心に残りました。夢は夢、目標は目標と二つは交わることがなく平行線だと思っていたけど、夢と目標はちゃんとつながっているんだと初めて知ることができました。「勉強はあまりしなくてもいい、必ずする時が来るから」と言われた時、とても人生が自由に感じました。勉強苦手だけど、周りに縛られない自分の生き方でいいんだと思いました。
- ◇ 「目標は高すぎない方がいい」この言葉がすごく心にのこっています。目標が高すぎると途中で挫折してしまうことが多いからだ。でも「目標は高く持て」って言われるけどな。と思いました。でも、その高い目標を達成するために小さい目標を立てて少しずつその高い目標に近づけたらいいのかなと思いました。まず大事なことは今の自分の実力・力量を理解することだと思いました。
- ◇ 礼儀というものはされるものではなく、するものと聞いて、しっかりあいさつしようと思った。
- ◇ どのブースの方々も終わると「ありがとう」と言ってくれた。聞かせてもらったのは僕たちなのに。
- ◇ 生きがいていっぱいあるんだなって思った。
- ◇ みなさん仕事も歳もばらばらだけど1つ共通するところがありました。それは「すごく生き活きと仕事をしている」ということです。すごく楽しそうで私たちに自分の仕事の魅力を伝えたいという想いが伝わってきました。
- ◇ お母さんに「あんたは無理無理」といつも言われて傷ついていたけど、〇〇さんの「何事も一生懸命に取り組めば夢はかなう」という言葉聞いて勇気づけられました。
- ◇ 1人1人がその人なりに働く意味を持っていて、仕事をしていて、その言葉にはみんな力強さがあって大人はすごいなと思いました。
- ◇ 将来の夢を1つにしぼらなくても、色々な仕事にも目を向けることで、これまでになかった自分に合った仕事を見つけられると、キャリアフェスを通して感じることができました。また、「頭がいいから〇〇になれるというわけでない」と、ある方が言うてくださって、勉強苦手だけど、努力して自分の目指すことを見つけたいです。
- ◇ あの場の大人全員が輝いて見えた。全員が全力で、笑顔で、自分の仕事について語ってくれた。たとえ自分が今描いている理想通りにならなくても、こんなに楽しんでいる大人がいるんだから大丈夫だと思えた。
- ◇ 現実的な大人になりたいけれど、夢見る大人もけっこう格好良いと思った
- ◇ 人生の話をしてくれた。めっちゃがんばろうとも思ったし、勇気だそうと思った。
- ◇ 笑顔で楽しくお仕事をしている人に出会いたいと思っていたので、笑顔で本当に楽しくお仕事をされ

ている〇〇さんに出会えて本当によかったです。地元を大切にしていきたいと思いました。

- ☆ 全力で夢を応援してくれた大人、伊那に帰って伊那の良さを知り、それを伝えてくれた大人、中学生で志した夢を大学生になっても持ち続け、努力している大人、家の仕事を継ぎ、よりよくしようと努力している大人、自らの経験から、その仕事の大変さ、やりがいを教えてくれる大人と出会った。その誰もが自分の仕事に誇りを持ち、楽しそうに話をしてくれる素敵な大人だった。
- ☆ 社会に出てやっていくには、コミュニケーションが特に重要になってくるんだなと思った。
- ☆ 「技術はいらない」という話がとても心に残りました。私は、技術者やその道の知識がないと仕事に就けないと勝手に決め付けている部分がありました。技術の前に「やりたい」「楽しい」という気持ちが大事だと知って、やりたい仕事を見つけていいんだと思いました。
- ☆ 自分の将来の仕事になるきっかけは私生活の中に潜んでいるかもしれないと思った。
- ☆ 将来についてもっと気楽に考えていこうと前向きに思えた。日ごろから夢になるようなものを探し続けたいです。自分の将来について沢山考える機会になったし、自分のこれからはすごく楽しみになった。
- ☆ 小さな可能性を信じ、自分の目標に一生懸命になる大人になりたいと思いました。
- ☆ 全ての仕事がつながっていて、働くことは1人だけでは成り立つものではないんだなと思った。
- ☆ キャリアフェスはほとんどの人に「将来どんな仕事につきたい？」って聞かれました。「まだ決まってません。」と言うと、「大丈夫だよ。私が夢をもったの何年前だよ。」って言うてくれて、少し気持ちが楽になりました。
- ☆ 地元のことを考える時間になりました。10年後の伊那市はもっと発展していてほしいし、人も増えてほしいです。今からやれることはなんだろう。

他にも心に残った言葉が沢山あったようです。

- ☆ 「努力は裏切らない」「愛され続けるために変わり続ける」「他喜力」「自分の将来は自分で決める」「夢は1つだけじゃない」「目標をあきらめなければ、いつかは報われる」「人生成せば成美」「いろんな人が集まって良いチームができる」「あきらめないことが大事」「伊那に生きることを誇りに思ってください」「命日は必ずある。1日1日を大切に」「醤油は人間が手伝っているだけで、作っているのは酵母菌や麹菌。学校でも人間が先生で酵母菌や麹菌が生徒。社会に出た時にいい味になるように先生が手伝っている」「プレイだけでなく地域に貢献できる人」「自分のやりたいことを自分で決めてやる」「自分は命だけではなく、人の思いや、思い出を守れる人間になりたい」「相手の立場に立ってものを考えよ」「夢は必ず叶う」「何ごとも目標を持ってやるのが大事」「好きなことは、嫌な時もあるけど苦ではない」「やりたいことをやって、合わなかったら別のことを探せばいい」「お客様が喜んでくれたらそれが私の喜び」「人生はちょっと勇気を出して行動してみることが大切なんだよ」「周りや親にバカにされる夢を持っている人もいるかもしれないけど、自分の夢を追いかけろ。」「単純な作業を黙々とやっていたら飽きてしまうけど、食べる人の笑顔を思い浮かべると楽しくなる」「人は相手の3%しか見えていない。3%しか見えてないのに嫌いになるのはもったいない」「どんなに辛い時にもあなたの味方がいる。人にどんなに嫌なことをされても言われても、その人がそういう人だったことを知れたことはいいこと。一緒にいなければいい。ほっとけばいい。そのうちなんとかなるから。メンタル強くして大人になれ。がんばれ。」「日本の昔からの文化をよく知っていたほうがいい」「自分を大切にすれば、他人も大切にできる」「お客さんが笑顔になってくれることにやりがいを感じる」「なんだかんだって最後は人のため」

出展者感想抜粋

- ◇ 大人も上伊那の企業を見ることができ、知らなかった仕事を知る機会になった。
- ◇ 生徒たちは強い意志を持っている子も多く、積極的に各ブースに参加しているように感じました。
- ◇ 生徒に話すことで、聞いてもらうことでこちらが勇気もらった。自分にとっての良い経験になり、自身の仕事を見つめなおしプライドを持つ機会となり、伊那市のためにますます頑張ろう！という気持ちが再び芽生えました。
- ◇ 大人も非常に楽しかった。
- ◇ 大人（他業種）の方とつながることができ、今後仕事にもつながりそうな出会いができた。
- ◇ 実行委員会の皆さんの暖かさが伝わる素晴らしいイベントになったと思います。
- ◇ 地域に根差し郷土への興味・関心、地域の魅力を伝える機会が大切な事を改めて感じた。
- ◇ 継続していくべきだと強く感じた。
- ◇ 日頃言われていることでも、自分の親以外の大人から言われると、感じ方、受け取り方も変わるかもしれないと、生徒の反応を見て感じた。
- ◇ 中学生へのプレゼンは就活とは違い難しさがああったが、新鮮で、出展者側が学ぶことも多かった。同じ目線で話してみると興味を持って聞いてくれていたようです。
- ◇ 実行委員生徒中心のオープニング・クロージングが素晴らしかった。
- ◇ 生徒が運営に関わっているところが素晴らしい。やらされ感がなく自らが積極的に臨むイベントである自覚が感じられた。主体的にブースを訪れる生徒も多く感心した。
- ◇ 子どもたちの伝えたい、という想いと、その想いに応えようとする大人との関係。参加した子どもたちがとても生き生きとしていました。
- ◇ ブースに引き寄せる魅力と簡単にわかる説明を考え、来年リベンジしたいと考えます。良い機会を与えていただいたことに感謝いたします。
- ◇ 子ども同士の地域交流が地元愛の根底に芽生えていくと感じました。企業間でも職種を越えた交流の場になったと思います。
- ◇ 中学2年生、というとは何かと難しい年頃かと、少し構えていたところもあったのですが、ブースに来てくれた子どもたちは、みな素直で、積極的に話を聞き、質問も、こちらの問い掛けにも自分の言葉で返してくれました。大人からの一方通行にならなかったのは、事前学習がしっかりなされていた成果もあったのだろう、と感じます。また、実行委員の中学生は、とても貴重な経験が出来たかと思います。こうした経験があるからこそ、将来の地域を担う人材となってくれるのではないかな、と感じました。
- ◇ 職場体験の時より生徒たちがリラックスしているので話がしやすかったです。
- ◇ 中学生がこの業種に興味を持っていないということがわかりました。なので、少しでも興味を持ってもらえるようにしなきゃと思いました。
- ◇ 伊那市の中学生の行動力、熱意に感動しました。将来の地域を担うであろう生徒達との交流は、多くの企業様の良い経験、出会いとなったものと感じます。
- ◇ ブースごとで感想をいただけたのは話す側としても直接聞いた側の意見や気持ちを知ることができた。
- ◇ 今持っている不安みたいなものをすごく感じ、不安なことがあるから誰かに話して整理したり、安心したいという子がいて、この時間が不安を解決できるきっかけになったらいいなと思いました。仕事の話だけにしないことが大事だと思いました。
- ◇ 自分のやりたいことを考えるきっかけになればうれしい

- ◇ 癒しブースの存在は大きかったと思う。
- ◇ P T A (保護者) をもっと参加させてはどうか。
- ◇ 話をするだけではなく生徒からいろいろな話を聞けたことがすごく良かった。
- ◇ 楽しいゆるい空気感で良いのでしょうか？サブアリーナとメインアリーナの雰囲気がいぶ違った。
- ◇ 中学生と直接話すことができ、中学生が持つ職業観を聞くことができこちらも有意義だった。
- ◇ 物を配るブース、遊べるブースとそうでないブースとの集まりの差が大きい。
- ◇ 実行委員とそれ以外の生徒の温度差をすごく感じました。
- ◇ 伝統文化を生で見てもらい、話し、続ける意義を知ってもらうことができた。
- ◇ メインアリーナとサブアリーナの生徒の熱意やブース訪問に対する意識の差を感じた。メイン：試食など多くの肩の力が抜けた気楽な雰囲気。サブ：それぞれの企業の熱意とそれに呼応するかのような生徒の姿。
- ◇ 地域の大人たちが総出で、市を挙げて子ども達に向き合っているのがよくわかり、子ども達も楽しみながら伊那の魅力を知ることができたのではないかと思います。
- ◇ 最初はどうか伝えたらいいのか戸惑ったが、自分達も楽しもう！と思い取り組みだしたら「想い」も伝わりやすかったように感じます。自分の中2の頃を思い出しながら参加してみましたが、中学生もただ出展する自分たちもとても勉強になりました。
- ◇ 事前の企業参加説明会時より、イベント趣旨が明確にされており、尚且つデモンストレーションにより生徒に伝える思いとイメージをつかむ事が出来たので準備がしっかりできました。
- ◇ 中学2年生でもとても感性豊かで真剣な生徒がいてくれた事を嬉しく感じています。
- ◇ 他の各ブースを回ってみる中で、企業 PR という事ではなく、大人の仕事に対する思いや苦勞を生徒に伝えていたと感じ取る事が出来たので成果は大きかったと感じています。
- ◇ 生徒さんたちは、まだまだ大半の人たちは、仕事という認識が薄いと感じ、どのブースに入ろうかウロウロとしている人が見うけられた。時間内で積極的には、難しいかと思いました
- ◇ キラキラした目の中学生に、話してる中であれも言いたい、これも言いたいと思うことがたくさん出てきた。全部の話ができなくて残念だった。
- ◇ 多くの出展者達で賑わい中学生も各々のブースで真剣に聞き楽しんでいる姿が印象的でした。地元の企業や会社、団体等各々の分野の仕事の内容からやりがいを実際に体験し勉強出来るこの機会は、これから夢を持って進む中学生にとってすばらしい内容だったと思いました。私達のブースにも多くの中学生が来てくれて色々質問してくれ実際に体験したことが今後何かの役に立てたらと願います。
- ◇ 中学生にとっては「地元の元気な大人を知ってもらう」、大人にとっては「普段あまり接することのない中学生に自分達の伊那市や仕事に対する思いを伝える」機会となり、個人差はあるかもしれませんが、意味のある時間になったと感じています。
- ◇ 先生方が一人も訪問してくれなかったことが残念です。
- ◇ 中学生キャリア教育で伺った中学校の生徒の方がブースに来てくれたり、職場体験に来た学生が友達と一緒に来てくれて、嬉しかったです。
- ◇ 時間配分は、企業側としては短かったです。
- ◇ スケジュール通りには回れなくなることへの対応が難しい。
- ◇ 今の中学生のリアルな感覚に触れることができ、仕事だけでなく自分達をアピールすることは出展側にも大きな経験となった。

第 1 回伊那市中学生キャリアフェス経過日程

月	日	内容	備考	月	日	内容	備考
H29 8	28	キャリア教育推進委員会	伊那市中学生キャリアフェス開催決定	7	2	第5回実行委員会	
					25	リーダー会議	
9		実行委員推薦依頼			31	第6回実行委員会	
10	31	第1回実行委員会		8	7~8	生徒実行委員合宿	国立信州高遠青少年自然の家
11	24	駒ヶ根東中キャリアフェス見学					
H30 1	16	キャリア教育推進委員会			20	出展者説明会	会場：多目的 出展内容デモンストレーション 実行委員からのビデオメッセージ
	29	第2回実行委員会				パンフレット素材受領開始	
2	26	実行委員グループリーダー会議			27	第7回実行委員会	
		生徒実行委員選出依頼	各校より2名 男女問わず依頼	9	3	生徒実行委員会	
3	20	商工会議所向け説明	商工会理事会にて武田実行委員長説明		14	リーダー会議	
	26	募集開始前 キャリアフェス説明会	会場：伊那公民館 職場体験受入れ事業所 昨年度参加事業所への案内送付・新聞告知		21	第8回実行委員会	
				10	1	生徒実行委員会	
	28	実行委員グループリーダー会議			9	第9回実行委員会	
4	19	実行委員グループリーダー会議			10	生徒実行委員会	
5	7	キャリア教育推進委員会			15~19	各学校事前学習	
	9	生徒実行委員会	生徒顔合わせ・テーマについて		31	会場準備	備品搬入他
	10	第3回実行委員会					
	17	テーマ決定	生徒実行委員会にて出た候補を全生徒投票で決定	11	1	出展者会場準備 リハーサル	午後、出展ブース搬入開始 実行委員生徒オープニング クロージングリハーサル
	未	申し込みチラシ配布開始					
6	1	記者会見・第4回実行委員会			2	当日	
	14	募集開始後 キャリアフェス説明会	会場：502会議室 申込み期間中説明		12	第10回実行委員会	
					12	10	キャリア教育推進委員会
	29	申し込み締め切り			12	生徒実行委員 解散式	

キャリアフェス実行委員

委員長：武田育夫（伊那中学校）

副委員長兼生徒リーダー：中島一真（東部中学校）

生徒サブリーダー：佐野天咲（春富中学校）

春日一哉（伊那食品工業(株)） 羽根井友子（伊那商工会議所） 春日祐樹（(株)信州ウエイスト） 網野俊輔（加納屋） 小笠原裕樹（農業法人ミナミアグリ） 氣賀澤真・有賀にや（JA上伊那） 矢澤秀樹（伊那市社会福祉協議会） 松島利之・前島直哉・松村京香（伊那中学校） 鎌倉琢磨・竹下杏奈（東部中学校） 島尻英二・吉瀬幸雄・田中達也・木下渉平・有賀向日葵（西箕輪中学校） 平澤和広・中島千春・飯島快周（春富中学校） 鬼頭つかさ・藪大翔・齊藤晶（高遠中学校） 田中祐貴・高波響・山下千夜子・中山春香（長谷中学校） 傳田智子・井崎由華（上伊那広域連合） 中村和明（西箕輪公民館） 小牧学・橋爪真弓（伊那市役所） 田畑和輝・吉田浩之・伊藤香里・酒井美穂・久保村英未子・荒川利江（伊那市教育委員会）

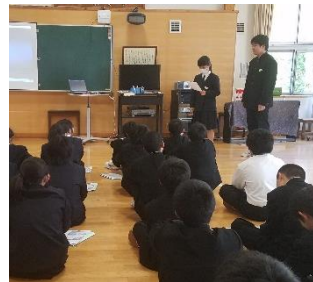
—生徒実行委員会記録—



初顔合わせ時はみんな緊張して硬い表情。初めて会う他校の生徒、自分たちが何をするのかもよくわからず不安げな表情でしたが、大人の実行委員と自己紹介ゲームでちょっと打ち解け、その後キャリアフェスは、生徒実行委員の役割は、など自分たちが担う役割を理解し、早速今年のテーマについてグループワーク。委員会で出た案を元に全中学2年生で投票を行い「未来につなげる一つの出会い」が今年のテーマに決まりました。6月には記者会見を行い、テーマ発表。キャリアフェス開催を広く地域に知ってもらおうと共に、自分たちが実行委員の一員である意識もできました。



夏休みには国立信州高遠青少年自然の家にて合宿を行いました。最初はまだぎこちなかった生徒たちでしたが、この2日間を通してぐーっと距離が縮まり、意見もどんどん出るようになり、生徒リーダーはじめ各自の役割も決定し、キャリアフェスに向けてみんなが同じ方向に向かっていく団結ができた時間となりました。この合宿の成果が最終的にとても大きかったと感じます。市長も激励に来てくれました。



時間の限られた中、担当するオープニング、クロージングに向けて意見を出し合い、できることできないこと、意見の違い、様々な状況を自分たちで考え、生徒主導で行えるように大人は基本サポートのみ。任せられる責任感だけでなく、いいものを作りたい、ゼロから何かを成し遂げる経験は次世代リーダー育成という点でも重要な経験となりました。

生徒実行委員感想

- ◇ 実行委員としての活動がものすごく楽しかった。
- ◇ 学校では尊重されない意見や、聞いてもらえないことも、実行委員会ではどんな意見も聞いてもらえて、「認められてる」という実感があり、自身がつきました。
- ◇ 人見知りで人前で話すことが苦手だったけど、自分に自信がついたことで、どんな場でも堂々といられるようになった。
- ◇ 自分自身が成長できたという実感が持てた。具体的なことではないが、自分達でアイデアを出し、考え作り上げていく過程は今までにない達成感を感じることができた。最初は不安だったけど、実行委員にさせてもらえて感謝しています。
- ◇ 合宿に行ったことで一挙に実行委員同士の中が打ち解けることができ、その後の話し合いなどもスムーズにいくように感じました。
- ◇ 最後まで実行委員をやり遂げた事、自分の得意な事（ベース）で参加できたことは自分自身が成長できたと実感でき、最初不安だった気持ちとは180度変わり、自信になりました。
- ◇ 担当になった表紙の絵も「私でいいのかな」と自信がなかったけど、大人の実行委員の方をはじめ褒めてもらい、自分の絵に自信を持つことができました。最初は不安だったけど実行委員会を経験できたことは自分自身の成長になりました。
- ◇ 大人や先生に頼り切るのではなく、自分達で何かを創っていく楽しさを知ることができました。
- ◇ 話し合いや、指導してもらおう中で、今まで思ってもいなかった考え方を身に付けることができました。

感想文

キャリアフェス生徒実行委員会、私がこれに立候補したのは、去年は参加者として関わった「キャリアフェス in 春富中」の影響です。去年のキャリアフェスは本当に楽しく、今でも忘れられません。そんなキャリアフェスに今年も参加できる！とのことで前回とは違う立場でキャリアフェスに関わってみたいという好奇心から生徒実行委員に立候補しました。また、第1回という言葉もとっても魅力的でした！

5月、初めての実行委員会がありました。キャリアフェスに向けてガシガシ話し合いを進めていくものだと思っていたので、自己紹介の後いきなりゲームが始まってかなり衝撃でした。でも今考えると、初めて会った人といきなり話し合いをするなんて絶対無理だったよな、と思います。そして、このメンバーでキャリアフェスを創っていくにあたり、一番良い時間だったのはあの合宿です。それまで1、2時間の短い時間で話し合いを行ったりしたので、なかなか他の学校の人たちと距離を詰められずにいました。あの時初めて全員の顔と名前を認識したというくらいです。でも、合宿では1日でそんな距離がぐっと縮まりました。楽しみながらも全員が同じ方向を向いて本気でキャリアフェスを創りあげていくあの空間が私は本当に好きでした。あの場所があったことで私たちはとても良いチームになることができ、その後の話し合いのやりやすさ、そしてキャリアフェス全体の雰囲気にとっても良い影響をあたえたと思います。

そしてもう1つ、私が実行委員をやって印象に残ったものがあります。それは「大人」です。実行委員なんて名前だから正直もっとお堅い大人の方々が来ると思っていました。でも全然違いました！大人のみなさんのキャリアフェスへの熱い思いが私たちにも伝わってきました。さらに、私たち中学生の意見もちゃんと聞いてくれること、こっちの無茶な要望（くす玉とか、オープニングをメインアリーナでやりたい！とか）に本当に応えてくれたこと、私たちが出した案を現実的に・・・ではなくもっと面白くしよう！というよう

に考えてくれたこと。こんなにすごい大人がいるんだ！と心から思いました。私はキャリアフェスに関わってくださった全ての大人のみなさんが大好きです。こんな大人の方々と沢山出会うことができ本当に幸せでした。

もちろんキャリアフェスの実行委員会は楽しいことばかりではありませんでした。同じところを何度も練り直したり、全員が納得できる案が浮かばなかったり。参加してくれる人全員がキャリアフェスを楽しめるようにするにはどうしたらいいのか、けっこう本気で悩みました。でも、最終的には全員が自信を持ってこれが自分たちのキャリアフェスだと言えるところまで持っていくことができたと思います。キャリアフェス実行委員会を通して出会えた仲間、大人の皆さんとキャリアフェスを創り上げた、ということだけで自分の中で大きな財産と誇りになりました。来年も実行委員やりたいね。と本気で今みんな話をしています。何なら次は12人でブースを出すか？とも。そのくらい全員がキャリアフェスのことが大好きで大切なのだと思います。ぜひ来年もほんの少しでいいのでキャリアフェスに関われたらとっても嬉しいです！「第1回伊那市中学生キャリアフェス 未来につなげる一つの出会い」大成功でした。色々な人から「お疲れ、楽しかったよ」と言ってもらえたので、そう言い切りたいと思います。

こんなに楽しくて、こんなに勉強になって、こんなに沢山の人から愛されるこのキャリアフェスがこれからもずっと伊那に残り続け、進化し続け、そしてまたもう一度関われる日が来ますように。

本当に今までありがとうございました。

※ 実行委員としての感想文の中から代表して掲載しました。

ことの始まりは2年前、初夏の頃だったと思う。

伊那中学校の校長室で、郷土愛プロジェクトメンバーである田畑和輝さんと傳田智子さんと私と3人の雑談だった。いや、雑談というより、夢を、理想を語り合っていたという方が事実に近い。

キャリアフェスは、「こんなことできたらいいよね」「じゃあ、伊那中でやってみようか」から始まった。高邁な教育論から始まったものではない。第1回の伊那中キャリアフェスは、誰もどんなものになるかわからない中での準備であった。実務を担当した傳田さんと久保村さんの気苦労はいかばかりであったかと推察する。当時の伊那中の大塚教頭も、どうなるか不安で仕方なかったと、実施後しばらく過ぎた頃もらした。

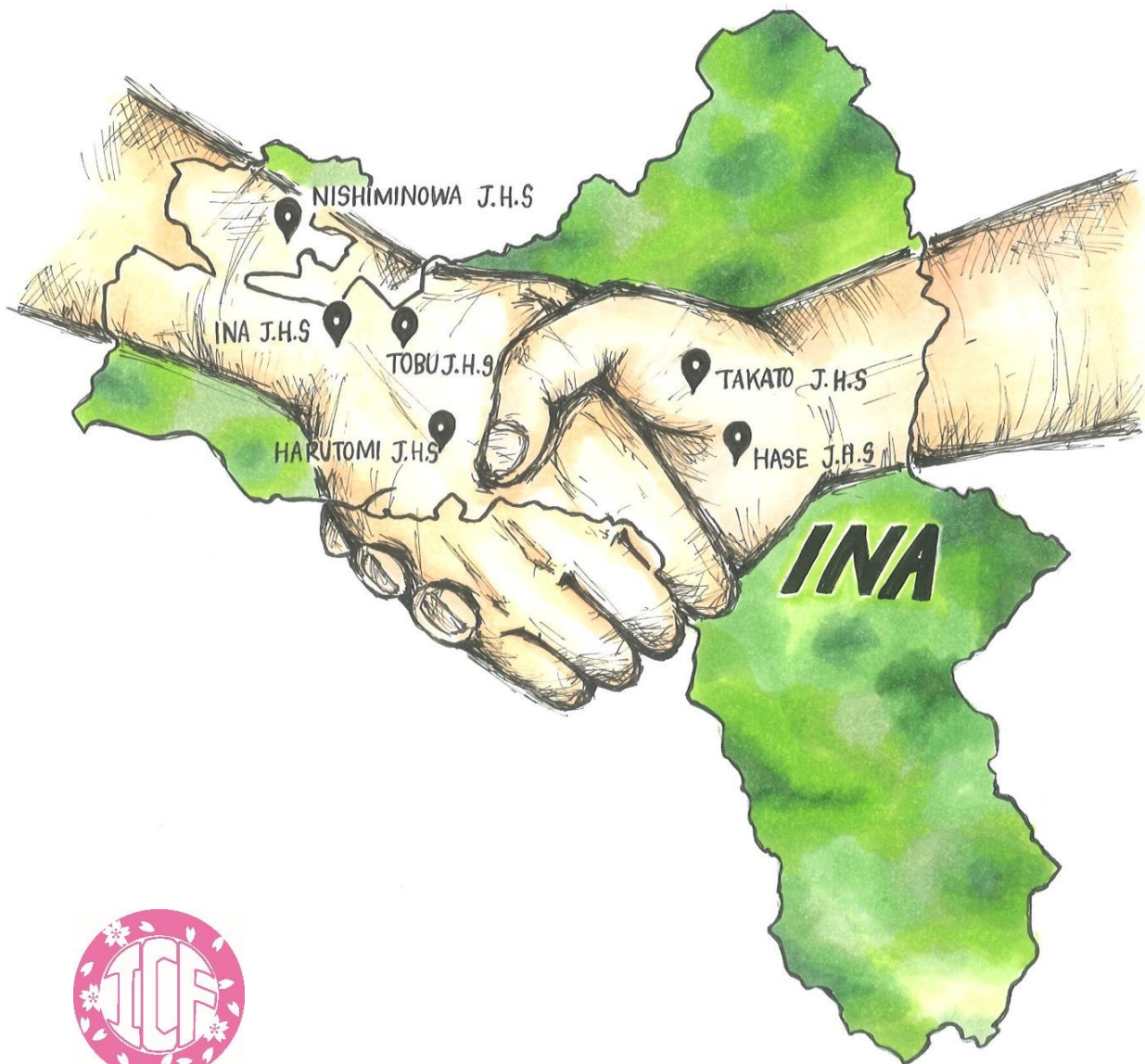
その後、キャリアフェスは多くの学校などで行われるようになった。伊那中で最初のキャリアフェスを行った時には、こんなに広がることは予想できなかった。

なぜ、キャリアフェスはここまで広がりを見せているのか。それは、キャリア教育としてどんな意味があるかとか、地域活性化にどんな影響があるかとか、そういうことではないと私は思っている。キャリアフェスの持つ力は、参加している多くの大人と中学生の笑顔の力である。参加した者、会場に足を踏み入れた者の多くが感じる笑顔の力。それがキャリアフェスである。田畑さんはそれを「場の持つ力」と表現した。

笑顔がなくなったら、キャリアフェスは力を失う。楽しくなくてはキャリアフェスではない。

今後、キャリアフェスを継続していくとき、さまざまな抵抗勢力が出現すると思うが、この魂は大事にしていきたいと思う。

実行委員長 武田 育夫



(表紙・裏表紙 有賀向日葵)

(ロゴ 生徒実行委員合作)

伊那市中学生キャリアフェス実行委員会事務局：伊那市教育委員会学校教育課
電話：0265-72-3351 FAX：0265-72-4142

平成30年度 長野県「地域発元気づくり支援金」採択事業